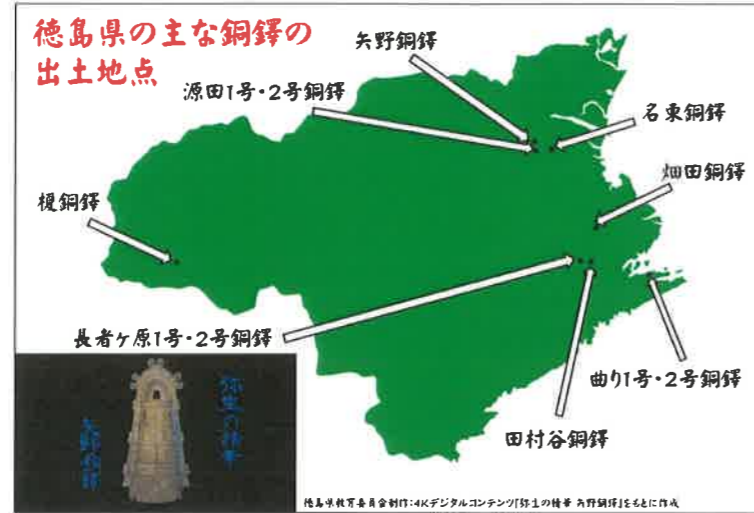


【1】銅鐸と朱に込められた思い

徳島県で出土する「銅鐸」や「朱」を手がかりにして、弥生時代の人々はどのようなことを考えていたのか、資料から想像してみよう。



矢野銅鐸 (徳島市国府)



銅鐸出土地点(4Kデジタルコンテンツ「弥生の精華 矢野銅鐸」より作成)



安都真3号 (徳島市入田) の復元

徳島県の銅鐸出土数は全国有数

銅鐸は日本特有の発展をとげた青銅器です。その起源は中国大陸の人々が腰に付けていた銅鈴が、弥生時代に日本(倭国)へ伝わり、大型化したものとする説があります。銅鐸は釣り鐘の形をしています。大きさは10cm程度のものから1mを超えるものまで様々です。これまでにおよそ500点見つかっています。徳島県では42点確認されており、全国有数の出土数です。

銅鐸に込められた弥生人の思い

弥生人はなぜ銅鐸をつくったのでしょうか。そのヒントが香川県から出土したとされる銅鐸にありました。この銅鐸には当時の稲作の様子と、水田やその周りに住む亀やトンボ、鹿などさまざまな虫・動物が描かれていたのです。弥生時代は本格的な農耕が開始された時代です。銅鐸は豊作を祈る祭や、収穫を祝う祭りに欠かせない道具だったのです。

神聖な色 - 朱 -

中国の歴史書である三国志の『魏志』の倭人伝に「其山有丹(そのやまにたんあり)」と書かれていることから、弥生時代に朱の生産が行われていたと考えられています。鮮やかな赤色を発する朱は神聖な色でした。弥生時代の墓では、棺や遺体の周りに水で溶いた朱を塗っています。邪悪なものから死者を守る魔除けの効果を



色にはどんな意味があるのかな。



鳴門市西山谷2号墳石室(濃い部分が朱の範囲)



辰砂原石(若杉山遺跡の周辺で採集)



朱をつくる様子



埋められた銅鐸(名東遺跡)



辰砂採掘道具(若杉山遺跡)

期待したのでしょうか。この思想は古墳時代に引き継がれます。鳴門市の西山谷2号墳では竪穴式石室の内部から朱が見つかりました。近畿地方の古墳の竪穴式石室からも朱は見つかっています。

日本最古の辰砂採掘遺跡 - 若杉山遺跡 -

朱のひとつである水銀朱は、辰砂と呼ばれる鉱物から作られます。阿南市水井町の若杉山遺跡は辰砂を採掘していた遺跡です。弥生人は岩盤の中に含まれる辰砂の鉱脈を目指して掘り進んでいきました。発掘調査では岩盤を砕いて辰砂を取り出すための石杵や石臼などの採掘道具が出土しています。若杉山遺跡は日本で最も古い辰砂採掘遺跡です。

徳島県立埋蔵文化財総合センター(レキシルとくしま)では、辰砂から水銀朱をつくる弥生人の様子をジオラマで紹介しているよ。



変化する弥生時代の思想 - 古墳時代への歩み -

稲作を本格的に開始した弥生人にとって、農耕にかかわる祭りは豊作を祈り、感謝する大切な行事でした。銅鐸は祭りに欠かせない道具であり、ムラ人が共同で所有する宝でした。ところが弥生時代の後半になるとしだいに銅鐸は使用されなくなり、やがて地中に埋められたと考えられています。

銅鐸を用いた祭りがしだいに行われなくなる一方、弥生時代の終わり頃から有力者の墓には貴重な朱が使われはじめ、古墳時代にはそれが広がっていきます。朱に染まった棺に葬られることは、権威の象徴でもあったのです。